

源流人会だより

ぽたたい!

源流のひとしずく

第2号

2004 4月

森と水の源流館

住所●奈良県吉野郡川上村宮の平
財団法人吉野川紀の川源流物語
TEL ● 07465・2・0888
FAX ● 07465・2・0388
URL ● <http://www.genryuu.or.jp>
E-mail ● genryuu@joy.ocn.ne.jp

CONTENTS

- ・シリーズ『吉野川源流一水源地の森』その生態に迫る
- ・“源流”を学ぼう
- ・キッズキャンプを通して「吉野川・紀の川源流の原生林でコケに学ぶ」

『吉野川源流一水源地の森』その生態に迫る 保全のための生態調査・中間報告



春到来! カゲロウたちの飛翔の時

〔2003年4月
水源地の森にて〕

写真は、早春にみられる「ナミヒラタカゲロウ」の変わった行動のようすで、時には数千匹ものオスたちが水辺に集まり、交尾をするために尾を横いっばいに広げながらメスが近づくのを待っているところです。

ぽたたい

源流のひとしずく

春
第2号

発行所 ■ 財団法人吉野川紀の川源流物語 発行日 ■ 平成16年4月1日発行
財団法人吉野川紀の川源流物語 TEL 07465・2・0888

4月

イベントカレンダー

4月29日(祝) 源流の森 シアター 「川」編 スタート

現在、上映中の四季編“生命をつなぐ源流の森”に新編が加わります。テーマは“川”。透明感あふれる水中撮影などで、源流に息づく生きもののたちの生態や、変化する水の姿をパノラマ映像で迫ります。

29(祝) 森と水の源流館
オープン記念日

おかげさまで2周年。
源流の森シアターに“川”編が登場

18(日) 源流人会限定企画 源

源流学の森づくり
9:00~17:00 定員20名 小学5年~
大人(1,500) / 小中高(1,000)



「源流学の森づくり」
原生林の周辺には伐採された森があり、現在、若い木が育っています。この森を手入れする森づくりをとおして、「森」について共に学びましょう。

5月

1(土) 水源地の森ツアー
~2周年記念ウォーク~

9:30~16:30 定員20名 小学生~
大人3,500(3,200) / 小中高2,000(1,800)
高低差130m 距離 3km

3(月) いろりばた教室/もりみず探検隊

不動さんのおまつりと大峯山ハイキング
9:00~16:30 定員25名 小学3年生~
大人3,000(2,700) / 小中高1,200(1,000)
高低差400m 距離 2km

5(祝) 水源地の森ツアー

9:30~16:30 定員20名 小学生~
大人3,500(3,200) / 小中高2,000(1,800)
高低差 130m 距離 3km

6月

6(日) 源流人会限定企画 源

源流学の森づくり
9:00~17:00 定員20名 小学5年~
大人(1,500) / 小中高(1,000)

19(土) もりみず探検隊

夜の暗闇体験~ホテルにあえるかな~
16:00~20:30 定員25名 小学生~
大人3,000(2,700) / 小中高1,200(1,000)



「もりみず探検隊」
川上村には、源流の自然や歴史、文化など魅力がいっぱい。それらとふれる体験をとおして自然と共に生きる力・知恵を学びます。

7月

3(土) 源流人会限定企画 源

水源地の森の調査 ~下層植生を調べます~
9:00~17:00 定員10名 高校生~
大人(2,000) / 高(1,800)
高低差 450m 6km

23(金) 特別企画

~25(日) 第3回森と水のワークショップ
~どっぶり!ざぶーん!な3日間~
10:30集合~15:30解散 定員20名
小学3~6年生 28,000(兄弟割引あり)

31(土) いろりばた教室

第6回 お伊勢参りと伊勢音頭
13:30~(予定) 小学生~
入場無料(要入館料)

8月

8(日) もりみず探検隊

縄文生活体験!
~石器をつくって魚をさばこう~
9:30~16:30 定員25名 小学生~
大人3,000(2,700) / 小中高1,200(1,000)

29(日) 水源地の森ツアー

9:30~16:30 定員20名 小学生~
大人3,500(3,200) / 小中高2,000(1,800)
高低差 130m 距離 3km



「水源地の森ツアー」
原生林をいくツアー。川上村が購入し保全している“吉野川源流-水源地の森”にふれてみませんか。

源...会員対象企画 ()内の金額...源流人会会員価格
近鉄大和上市駅へ送迎バス有り、要予約(いろりばた教室除く)

※各イベントとも要申し込み、詳細はお問合せください。
年間イベントカレンダーを御希望の方は、御連絡ください。

前号でお知らせしましたように、昨年から進めている生態調査の中間報告をお知らせします。今回は、調査エリアや調査項目、また現在までに確認されている動植物の種の概要についてお知らせします。

目的と経緯

この調査は、吉野川・紀の川の源流部に位置し、川上村が購入し、保存している原生林「吉野川源流—水源地の森」の保全を進めるための基礎調査として、この森に生育・生息する動植物の現状を把握するための基礎データを得るものです。

調査の概要

期 間：平成14年10月～16年3月まで

調査地域：「吉野川源流—水源地の森」（全740haのうち382ha、図-1）

調査項目：○草・木・シダ（維管束植物） ○コケ（蘚苔植物）

○巨樹 ○哺乳類 ○鳥類 ○両生類 ○は虫類 ○魚類

○底生生物 ○陸上昆虫類

調査方法は、可能な限り標本を採取し、動物については糞などの痕跡や目撃・鳴き声などで記録。

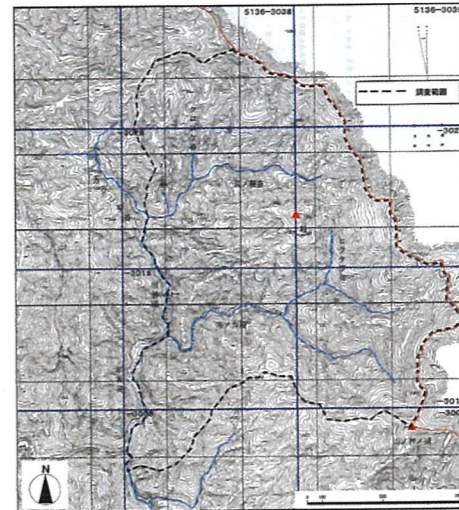
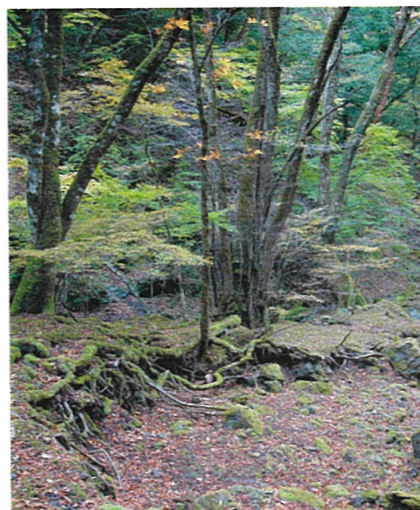


図-1 調査範囲図

植生概況

現在までに明らかになってきたこの森の全体像のなかから、植生について紹介します。沢沿いにはサワグルミ、シオジを主体とする渓谷林が分布し、その上部は標高600～650mを上限に、ウラジログシ、ツクバネガシを主体とした暖温帯常緑広葉樹林が分布し、さらに上部には標高1,000m近くまで、モミ、ツガが優占する中間温帯常緑針葉樹林が発達しています。「水源地の森」の中で一番標高の高い“山の神の頭”から高見山脈の尾根部には、温帯広葉樹林のブナ林が一部みられますが、一部では三重県側での植林時に伐採され、二次林となっています。しかし、大部分は自然林としての期間は長く、モミ・ツガ・トガサワラ・ブナ・ミズナラ等の巨樹がいたる所に生育しています。雨量や湿度の高さから、コケ類の生育が良好であり、特に渓谷部ではコケ群落の美しさが印象的で、多様な環境が豊かな生態系を維持していることが分かってきました。しかし、一方で低木や草本の減少が目につき、土壌の流失が心配されます。現在、下層植生が減少している原因を調査しています。

LOOK

水源地の森の 主役たち

水

小さい頃、蛇口から流れる水をながめては、「水ってなに？」と考えたものです。決まったかたちもなく、常にそこに留まることもなく、雪や霧や雨になったり…。手ですくった

水を空にほうりなげると、ぶるぶるふるえながら球になります。考えれば考えるほど不思議な水、そのおかげで、あらゆる生きものも存在することができのですから。水源地の森にいくたび、水は光と



一緒に、私たちの心をとりにこにするイキな演出もしてくれま。しかしとき、いろんな命もモノも奪うこともありま。増えも減りもせず地球を循環する水、私の体内に

いる水はどこからきて、そしてどこへゆくのか？

水源地の 森守 募金

～森を守ってモリモリ元気な水源地～

財団法人吉野川・紀の川源流物語では、みなさんと共に先人たちの守ってきた森を、これからも「水源地の森」としてずっと守り続けていきたいと考えています。そこで『水源地の森』の保全を支援するための募金を募っています。郵便振込でも受け付けています。ご協力のほどよろしくお願ひします。

口座番号

0095-2-331164

『水源地の森守募金』あて

おまちしています！ 吉野川・紀の川に関する情報提供

吉野川紀の川に関する情報ならどんな些細な事でもお知らせ下さい。

森と水の源流館のホームページでは皆様の情報を源流人会で共有するため掲示板を設置しています。入室には会員のパスワードが必要になりますが、会員相互の活用を活発に行うことにより川への知識や情報が多くなり、保全への意識が高まることとなります。

パスワードは入金時の約款に書いてありますが、御不明な方はお問い合わせ下さい。

中間報告

(15年9月現在)

○草・木・シダ (維管束植物)

104科・375種を確認、さらに追加される見込み。

<写真>トガサワラ

日本固有種で、紀伊半島と四国の一部にだけ自生する「生きた化石」と言われる針葉樹。名前の由来は、葉や全体の姿がトガ(ツガの別名)に似ていて、材はサワラに似ていることから。「水源地の森」の尾根部では巨樹も見られる。



○両生類

2目5科10種を確認

<写真>ナガレヒキガエル

本州中部地方の西部と近畿地方の標高50~1700mの山地帯に生息。ヒキガエルの仲間としては珍しく溪流で繁殖する。朱色のまだら模様など、体色のパターンはさまざま。



○コケ (蘇苔植物)

69科・222種を確認、さらに追加される見込み。



<写真>コウヤノマンネングサ

茎が樹のように枝分かれする美しいコケ。林の下のやや湿った地上に群生し、ふかふかしたマットをつくる。和名は“高野の万年草”で高野山にちなむ。「水源地の森」では溪谷部で美しい群生が見られる。

○巨樹 (幹周330cm以上、樹種特性から大きいと思われるもの)

62本を確認、さらに追加される見込み

<写真>カツラ

山地の谷沿い、溪畔林などに生育し、雌と雄の木がある。写真のようにたくさんの細い幹が周りから生える“ひこばえ”ができることが多い。紅葉した葉には甘い独特な香りがあり、抹香の材料になる。「水源地の森」では胸高直径が2m以上のものもある。



○哺乳類

6目12科17種を確認

<写真>モモジロコウモリ

お腹の下から太モモあたりの毛が白いことから名がついた。山間の川や湖で、水面すれすれを円を描くように、また一定の空間を直線的に飛びながら餌を捕る姿が見られる。「水源地の森」でも、日没後に餌となる虫を探して谷間を飛行する。



○は虫類

1目4科8種を確認

<写真>ニホンマムシ



○低生物 (川虫など)

5目30科74種を確認

<写真>ムカシトンボ



○魚類

2目3科3種を確認

○鳥類

9目27科58種を確認。

森と水の源流館オリジナル絵本が完成!

ふたつの龍のはなし

ダムという大きな出来事に揺れながら再出発する、山と川を愛する川上村の物語を、子ども達にも分かりやすく伝えようと絵本にしました。

制作には、「わかやま絵本の会」など、川上村や森と水の源流館を応援していただいている方々が参加してくれました。

森と水の源流館内にて一冊500円で販売中です。(売り上げの一部は森守募金に寄付されます)



「源流に学ぶ」

「キッズキャンプ」を通して 2003年8月

研究会社役員

西村由美

「森と水の源流館」とおつきあいをしたこの2年のあいだに、何度も源流の森を案内していただいた。あの空気と水のおいしさと多彩な緑と清々しい音を忘れることができない。そこにいるだけで不思議なことに日に日に元気がなくなった。そして、そこで学んだことは自然の大切さだけではなく、「人間の知恵」と「伝える心」です。

自然のなかでは何をすることもサバイバルで、24時間コンビニでなんでも買える都会の暮らしと違い、生きるということそのものが実に難しいことを感じる。しかし、長年山とともに生きてこられた方々は、木の育ち方、風の通り道、空の状態など、話さない自然相手にいとも簡単に危険を予測する。そこに貴重な経験と知識と技を感じる。辻谷さんに昨年の「キッズキャンプ」ではわか雨を予測し、今年のキャンプでは星がきれいに見えることを予測していただいた。おかげで私たちは空腹のまま寝ることもなかったし、いままで見たこともないほど美しい流れ星をたくさん見た。経験と知識から知恵が生み出される瞬間を何度も体験させてもらった。そして、その知恵は源流の森のごとく何年も何年も世代を越えて積み重ねられ、受け継がれてきたのだろう。

同様に「森と水の源流館」の職員の皆さんが一貫して「森を守りたい、大切さを伝えたい」と言っておられ、静かに語る坂口さんの言葉に熱い気持ちを感じる。現場では今年は今福さんに

沢を登っていくコースを案内して頂いた。危険を伴うガイドは並大抵ではない。そこにも知識と情熱が活かされている。しかも途中で、こどもたちに楽しく分かりやすく水と生き物の話をして頂き。こどもたちは興味津々で聞いていた。実際、作文にもいっぱい今福さんの名前が出てきていた。森を大切にしたいという言葉は私にもこどもたちの胸にも確かに響いていた。

山にいろんな木が生えていて彩があり、立体的に感じるように、人間もさまざま。人が山に生えていたいろんな木に見える。都会の暮らしでは人間関係が一番やっかいだが極めておもしろい。利害や考えが異なっても、共に尊重しあい、なくてはならないものとして見たときに、理想の社会を創れることを再認識。都会に戻って、もちろん蛇口の水を節約したり、ゴミを少なくする工夫はしているが、三之公と「森と水の源流館」の思いを人に伝えるとき、源流の森に携わる人の心意気を語らずに

第3回いろいろばた教室

(民族講演会)

「大峯修験道を支えた吉野の民衆」

講師：大西 房次氏 (天川村：洞川エコミュージアムセンター、元小学校長)
桐井 雅行氏 (吉野町：吉野町文化財保護委員会副委員長)
辻谷 達雄 (川上村：森と水の源流館館長)



川上村、吉野川紀の川流域、紀伊半島の民俗を探る「いろいろばた教室」。第3回は、最近、世界遺産への登録候補として注目を集めている大峯修験道を題材に11月30日(日)に開催。その地元の天川村、吉野町から講師をお招きして「吉野地方の人びとから見た大峯修験道」を探りました。

大西氏には、洞川集落に伝わる「おいよ才兵衛の子守歌」が、実は大峯山の利権争いを伝えていることや、「行者宿」に育った経験から、朝に夕に大峯修験道と深く関わってきた天川村の人びとの暮らしを浮き彫りにしていただきました。桐井氏には、世界遺産登録の話の後に、「蓮華会(蛙跳び)」

など吉野町の伝統行事の紹介とともに、信仰の面から大峯修験道に迫っていただきました。

また、辻谷館長は、鈴(りん)とホラ貝の実演や、修験者の道案内をした体験談、道しるべの残る川上村の古道の話などをしました。

ひとことに「大峯修験道の地元の3町村」といってもそれぞれ特徴があることや、全国から人が集まってきたこの地域の特徴が明らかになり、大変興味深く有意義な講演会となりました。

2月1日に開催した第4回「第4回後南朝哀史と川上村の人びと」の報告は、次回に掲載します。

平成16年度の年間計画についてはイベントカレンダーをご覧ください。

第2回源流塾

「吉野川・紀の川源流の原生林でコケに学ぶ」

源流の自然を深く知ることから、自然とともに生きる力や知恵を学ぶ勉強会、「源流塾」。第2回目は「水源地の森」の特徴のひとつでもある「コケ」をテーマとして、8月31日に開催しました。コケは約5億年前に地球に誕生した、植物のご先祖様。体全体で空気中の二酸化炭素や水分、養分を吸収して光合成をおこなう、まるで“かすみ”を食べる仙人のよう。今回は、このコケの実態を知ること、水源地の森の生態に迫りました。

講師は日本蘚苔(せんたい)類学会会員の木村全邦先生。まずは、「水源地の森」の入り口で、コケの観察ポイントや基礎知識を教えてくださいました。その後、森の沢沿いを歩きながらの観察会。見た目は1種類のコケでも、ルーペでよく見ると、様々なコケたちが養分の交換など、お互いに助け合いながら共生関係にあることや、干乾しているように見えるコケたちも、実は乾燥に耐えるために姿を変えてじっと雨を待っているといった生態のこと、また、コケは環境の変化に敏感なので、その地の生態を知る指標としても、私達に様々なことを伝えてくれることも教えてくださいました。

コケの視点からみたこの「水源地の森」の特徴は、環境が多様なことから、亜熱帯や寒帯のコケも混生し、とても興味深いということでした。



伐採から蘇りつつある
若い森から、
“源流”を学ぼう



吉野川・紀の川源流部の原生林、「水源地の森」の川向かいは、過去の伐採から再生しつつある若い森があります。しかし、その森は一度肌地になってしまったことで木々が一斉に生長したからか、森にはいると、若い木々が空を多いつくすように茂っており、うっそうとしています。森の地面は薄暗く、下層植生が育っていないため荒地が多く、土づくりが進んでいないようです。そこで、この森が早く水源涵養を持った立派な森になるよう、森づくりに取り組むことになりました。また、その作業を通して、私たちが普段の生活のなかで忘れてかけている、自然とうまくつきあう生き方(源流学)も学ぼうと、源流人会の会員を対象とした「源流学の森づくり」の企画が始まりました。

まずはワークショップによる意見交換

9月7日「森守募金キャンペーン」の開催日、「『源流学の森づくり』って何だ?」森の役割、私の役割」というワークショップを開催しました。源流人会の会員さんのほか、吉野川・紀の川でつながるさまざまな活動団体や関係自治体からの有志のみなさんにもご参加いただきました。川上村における昔からの森や木、川とのかかわりをふり返ったあと、森づくりの対象地の状況や作業内容の説明、そして森づくりに向けたそれぞれの思いを語りあいました。すこし難しそうにも聞こえましたが、館長曰く「とにかく現場へ行かんとわからん!」の一声に、参加者の期待が高まりました。

「源流学の森づくり」第1回、第2回開催。

いよいよ森に入ってから作業。ここでの「森づくり」は、他の地域でよく行われている植樹とは違い、生い茂った若い木々を、環境をみながら間引くことにより、地面まで陽が届くようにすることで下層植生が育つ環境を作ろうというものです。そうすることで土壌の流失を抑え、水源涵養機能の高い、また崩壊もおこりにくい立派な森への成長を助けようというものです。参加した源流人会のみなさんは、ナタやノコギリといった慣れない道具と傾斜のきつい足元に悪戦苦闘しながら、森で汗を流し、最初の水が生まれる森づくりに取り組みました。また、辻谷館長の指導で道具の手入れにも挑戦。自分で磨いたナタの切れ味を確かめました。(磨いだ方が切れにくくなった人も...)森のなかでは、道具があるかないか、また、その扱いひとつで疲労度や身の安全に大きく関わってくるなど、普段の生活では感じるできない貴重なひと時となったのではないのでしょうか。次回、源流学の森づくりは4月18日(日)に開催します。

